

神奈川工科大学

情報未来研究センター

研究報告

第 2 号

2025 年度

研究推進機構

目次

- ・第2回 KAIT サイエンスサマーの企画と実施

脇田敏裕、広井賀子、鷹野孝典、納富一宏

第 2 回 KAIT サイエンスサマーの企画と実施

研究者名：脇田敏裕、広井賀子、鷹野孝典、納富一宏

1. 研究の目的

本研究の目的は、地域住民が本学に来学し、本学の教育・研究内容を理解することで、大学と地域との連携を深めることである。

2. 研究の必要性及び従来の研究

社会における大学の役割は教育・研究・地域連携である。地域連携には、大学と地域が連携して地域課題を解決したり、地域の発展を促進する活動が望まれている。本学では従来から地域連携・貢献センターを設置し、地域の各種イベントで本学教員が講座を開いたり展示を行ったりする活動を実施していた。ただこれらのイベントは比較的小規模で回数も限られるため、地域の一部の住民のみを対象とした活動にとどまっていた。またその結果、本学の地域連携活動が学内外に十分周知されていなかった。

そこで今回、これらの展示や講座を本学を会場として同時開催することで、活動自体を一部地域だけではなく県全体に広げることができ、本学に来学頂くことでより認知度が高まるのではないかと考え昨年に引き続き表記イベントを実施した。

3. 期待される効果

以下の効果が期待できる。

- 大学のブランド価値向上
- 大学と地域との連携強化
- 将来的な本学への受験者増

4. 研究の経過及び結果・評価

2024 年 8 月 8 日、本学において第 2 回 KAIT サイエンスサマーを実施した。

- 日時： 8/8(金) 10:00-16:00
- 場所： 本学 K3、KAIT TOWN 1F 及び 2F、図書館 1F



図 1 会場の様子

- 内容：
 - 体験型展示 15 件（AI との対話、自動運転との競争、空気清浄、eSports など）
 - 講座 13 件（プログラミング、CG イラスト、モーター作成など）
 - 講演 2 件（流れのふしぎサイエンスショー、魔改造の夜）

- 来場者：約 600 名

来場者の内訳を図 2 に示す。小学生と保護者が主体であるが、入学者確保につなげるため今後中学生の来場者を増やすことを検討したい。

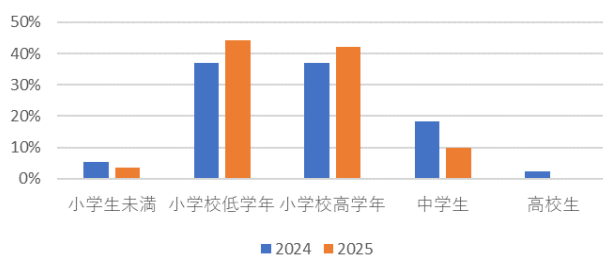


図 2 来場者内訳

- 来場者アンケート

来場者からのアンケート結果を図 3 に示す。非常に好評であった。

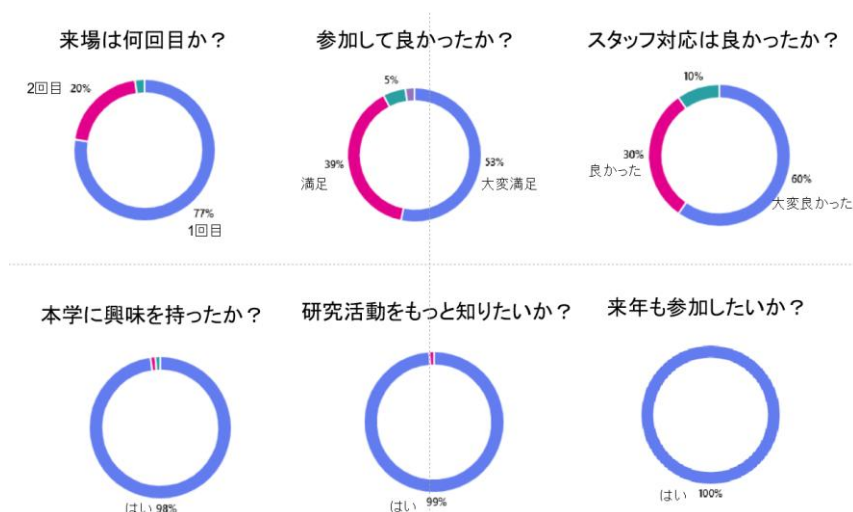


図 3 来場者アンケート結果

5. 今後の計画

2026 年度も同様のイベントを実施予定である。さらには今回で構築した地域とのつながりをもとに、今後市民参加型のシンポジウムなども開催し、より連携を深めていきたい。

6. 研究成果の発表

本イベントは 2025/8/22 テレビ神奈川の News ハーバーで 5 分程度放映された。また日刊工業新聞、神奈川新聞、タウンニュース、広報あつぎに掲載された。

また本学ホームページでも開催報告を行った。

以上